

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市学校町一・県庁本館社会教育課分室内】

【電話・(新潟)(23)5511 内線691】

【振替 新潟 4094】

発行人 会長 吉津 勝栄

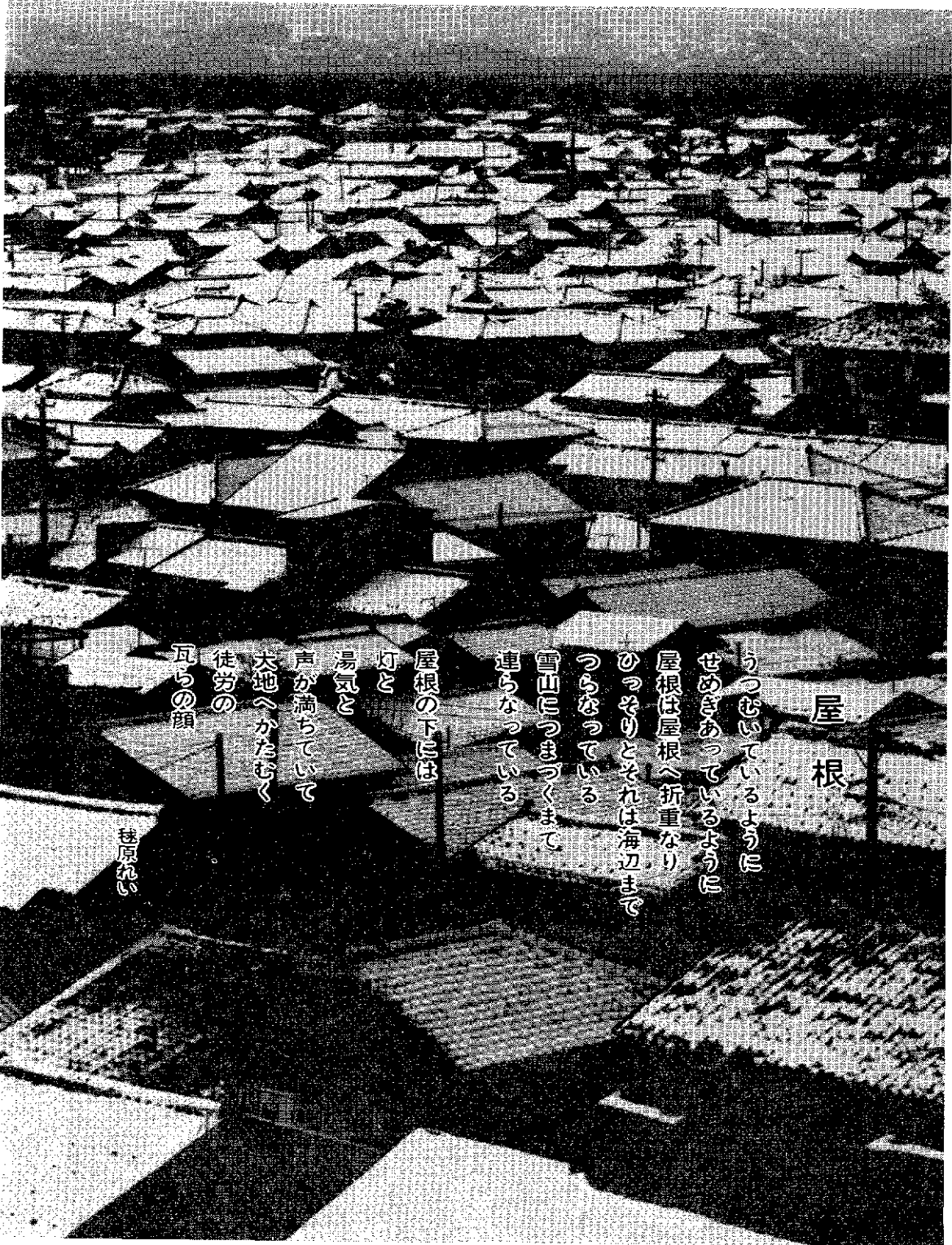
編集人 事務局長 本田 清

昭和41年11月15日発行(毎月1回15日発行)

【定価】部18円 年共・年価216円】

新潟県

公民館月報



屋根

うっせいでいるように
せめぎあっているように

屋根は屋根へ折重なり

ひっそりとそれは海辺まで

つらなっている

雪山につまづくまで

連らなっている

屋根の下には

灯と

湯気と

声が満ちていて

大地へかたむく

徒労の

瓦らの顔

は原なび



田上村公民館で行なわれた研究会

分科会討議に熱

田上公民館に二〇〇名が集う

さる十一月二十九、三十日の両日、南蒲田上村公民館で、県公民館運営研究会が開催された。県内から館長、主事、運営委員など約一〇〇名が参加、主題の一公民館の今日的使命は何か、それを果たすためにどうあるべきか、などについて、余公連から提出された「公民館のあるべき姿と今日の指標、各論」を素材にしたが、分科会に分れて討議、二日目、全体討議の結果、次のような議事内容が発表された。

(館長部会)
公民館は一般行政、地方自治への協力のたまふ必要である。

(運営部会)
館報は、行政広報とちがひ、問題提起がなされるべきである。館長は常勤専任が理想である。

(指導部会)
運営委員自身が、あまりにも公民館を知らず必要がある。研修の機会をもつ必要がある。指導は、閉鎖型としてはいない。機能を果たすだけでなく、実際の運営にまでタッチできる態勢を備えるべきである。

田上公民館が館長を兼務しているところがあるが、おなじみの活動になりやすい。予備獲得などもむしろ、お互いに遠慮があつて伸びない場合が多い。

これからの公民館は機動力が必要である。移動公民館の整備についての施策が進んでいる。成人教育は、青少年教育と同じように必要であるにもかかわらず、意欲を失っているか見えるのは問題だ。

予備の獲得と、専任の職員確保については、運営委員のなかで有力な人を得ることであり、(三事部会)

都市においては、公民館はいまより、市民の茶の間の役割がある。市民の茶の間、といふと、市民の生活に密着したものである。公民館は社会教育課との業務の調整は、もっと明確にしていく必要がある。

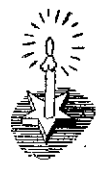
「公民館のあるべき姿と今日の指標、各論」の記述の順序は、公民館の二五つの課題の試案研究特別委員会」の研究結果と同じく、学習と創造、2、総合と調査、3、集会和活用、とすべきである。

各論の論理内容は、学校教育の形態に準じた形で展開されているが、将来のことを考へるとこれくらいは必要である。

地域の要求が何であるかを科学的に知り、結果の科学者プラス指導が必要。

公民館主事は「忙しい」といふのが多い。市民の茶の間になっていながら、関連機関を成長させ、その主体性にゆだねることで、休日や休むことができないのではないかと。

都市の場合、類似施設が多いため、公民館は機軸としての役割が大切である。



あとがき

アラブ・中近東の旅から帰ってほっとする間もなく、また旅のめまぐるしい日々は連日忙しさに追われる日です。日本にはなんという忙しさに満ちた国でしょうか。

このたびの旅で得た結論は一口でいけば、こんなに忙しい日本でも日本人はやはり日本が最高だということです。単純さの両端をもちたい日本の平和を自覚し、気遣いじみた繁栄をほじくり叩き、隙隙をなやませ、もかかえてはいるけれど、なおかつ、日本はいい国だということが実感でした。

それはアラブ・中近東には、まだ馴染みがあつていない感じがします。

低開路には、社会教育もまたその施設もなかつたと思像していったのですが、それが似たものがあつたのです。宗教が媒体になつていますが、宗教が日本の生活と切りはなせない民族の、たぐまざる相互教育取組を見ました。前年ほど少し書いてみたいと思ひます。(本)

私は南島のA.P. (アマチユア・ベン) クラブの常任幹事をしている。事業としては会をもつた。悪戯を重ねたり、不定期的に「べ」でおいても利用が出来な。いや「の集い」を発行している。利益七田福をいふまでもない根柢を離れた趣味の会であり、始めをいふものではないのだが、すくから希望したものだけが集まった同志の結合である。

会員は二十余名、こうしてはたわりのない会であるのに、総会の案内を往復はがきを出しても返事をくれないのが半分、返信は「白」だけか、くは情しいと思つて欠席の方には身辺雑記、希望などがくうラフだと満足そうに私を慰めてくは不快である。固と向つてのあいと添えあつてもそれをくも

のはそのまた全力であつた。往復納まらぬ。同志的結合によつてはがきの返信には宛名が刷りこんできた。百パーセントの返信をいふにしている気持は納まらぬ。みよつた。

これは手紙をもちつた。用件のない消息も主として大層

まいの、手紙ははがきが多い。エチケツトが生活に結びついていない証拠だ。こうした人たちは会

持主権側に迷惑をかけることを知らないのである。往復はがきは必ずその半分をすく返すといふ習慣をつけていふ。これは小さなエチケツトでもあり、大きなエチケツトでもある。

中には出席を通知しながら無断で欠席するものがある。宴会などで論議するのちも小さなエチケツトが守られる気持のよい日常生活を送れる社会にしたい。エチケツトは身近なところから積みあげていきたいものである。

(南燕五日町公民館運営委員)

田中 英蔵 (新潟県新潟市公民館館長)
白魚沼郡山西町公民館館長)

出席会員に「往復はがきは半分を返さなければならぬ」と事務的にしつていふ。其の幹事を多いために、面と向つていからいわけでははたした。さうされたら、まづいられて

紙ならそれでよいが用件が過ぎる。会内の案内、宴会の案内におれ

中から公民館は機動力が必要である。移動公民館の整備についての施策が進んでいる。成人教育は、青少年教育と同じように必要であるにもかかわらず、意欲を失っているか見えるのは問題だ。

予備の獲得と、専任の職員確保については、運営委員のなかで有力な人を得ることであり、(三事部会)

公民館主事は「忙しい」といふのが多い。市民の茶の間になっていながら、関連機関を成長させ、その主体性にゆだねることで、休日や休むことができないのではないかと。

公民館特別委員会
入会者名